



Via Latina 22

2021年2月 297号

総本部よりのお知らせ－マリア会

インドでの司祭叙階式



左より Ignase Arulappen師、Renny Markose師、
Peter Machado大司教と従属地区地区長Sudhir Kujur師

2021年1月23日、インド、バンガロールのPeter Machado大司教はマリア会Renny Markose士をデーパハリにて司祭職に叙階しました。叙階式は敬意と尊敬の念に満ちた雰囲気の中で執り行われ、デーパハリのすべてのマリアニスト共同体がこの叙階式に関わりました。Rennyの家族メンバー、マリアニスト家族メンバー、司祭や修道女たち約200名が、叙階式に出席しました。

叙階式典はお祝いの食事をもって終了しましたが、この食事の間に出席者たちは新司祭にお祝いの言葉を述べたり、彼のために祈りを唱えたりしました。2021年2月8日、Renny神父は彼が育った小教区で家族の人々も参加して最初の感謝のミサを捧げます。

ローマのシャミナード国際神学校での助祭叙階式



左より Cyprian Maingi士、Victor Augusto Ferreira士、David Kangwa士、Alejandro Borrella士、Santhosh Savarimuthu士とMinyoung Ki士

2021年1月9日、ローマのシャミナード国際神学校では次の6名の神学生の助祭叙階を祝いました：Alejandro Borrella (Spain), Victor Augusto Ferreira (Brazil), David Kangwa (Zambia), Minyoung Ki (Korea), Cyprian Maingi (Kenya), そしてSanthosh Savarimuthu (India)。これら6名の兄弟たちが司祭職への道を継続するので、マリア会は喜びと感謝で満たされています。

ローマ教皇庁教理省長官、Luis Ladaria枢機卿がこの叙階式を執り行いました。枢機卿はその説教の中で、この6名の神学生に向かって次のように話されました。“あなた方は祭壇の奉仕者です。あなた方はみ言葉の奉仕者です。あなた方は貧しい人と困窮者への奉仕者です。これらのあらゆる点で、あなた方は主に仕えるのです。”

説教の後半で枢機卿は次のように言われました：“奉仕の精神はあなた方の人生全体を通して常に持ち続けるべきものです。奉仕というあなた方の人生のこの生活規範を決して失ったり忘れてはなりません。あなた方はこの瞬間から全生涯をかけキリストと一つになるのです。あなた方は全ての人の奉仕者です。”

助祭叙階のお祝いはローマの「マリアの御名」小教区で行われました。出席者は、総本部共同体メンバー、マリアニスト国際神学校の神学生、ローマの他のマリアニスト共同体の代表者、そして新助祭の友人たち数名でした。感染拡大のために、参加人数、およびミサ聖祭後の皆でお祝いする時間も制限せざるをえませんでした。しかしながら、私たちが大きな喜びでお祝いするのにそれが妨げにはなりません。叙階式はインターネットで生配信され、家族の皆さん、修道者たち、そして友人を含む1000名以上の人々が参加することができました。

養成委員会

2018年の第35回総会の指示に従い、2020年3月に、マリア会の初期養成についての改定プロセスが開始されました。各行政単位の霊生部長、および、現在の養成担当者（かつてそうであった人）のグループと、意見聴取が行われました。

これらの回答から、強化され或いは実行されなければならない養成に関する幾つかの側面がある事が確認され、あるいは明らかになりました。これらの課題についての一部の仕事は行政単位とゾーンでなされるべきですが、マリア会全体に共通するテーマに関係する他の部分もあります。ですから、私たちは調査で特定された幾つかの課題に応えるために養成委員会を設立したのです。最初の段階では、この委員会はいくつかの特定の目標を持って活動するつもりでしたが、結果的には、養成の件に関して恒久的に総長評議員会へ助言する委員会となる可能性があります。



この最初の段階での特定の目標は：

1. 新しい養成者のためのトレーニング計画を作成すること
2. 「マリア会養成指針」（1996年版）を改定すること

この委員会メンバーは次の人たちです：Erik Otiende士(EA), Martin Solma師(US), Romuald Nlumbu師(FR-CO), Ignace Pagnan師(TO), Noël Dominique Kouao師(CI), Christopher Wittmann師(US), Joseph Mwaura師(EA), Miguel Ángel Cortés師(ES), Enrique Aguilera師(ES), 霊生局長 Pablo Rambaud師。

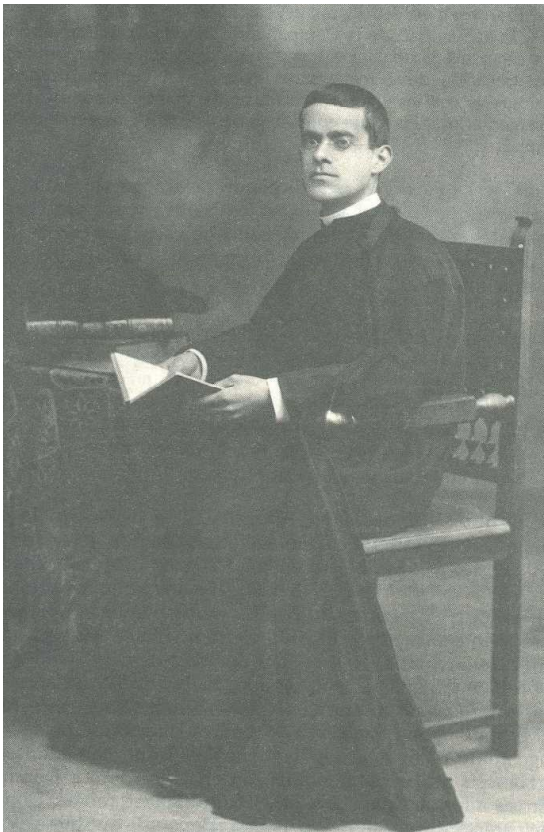
委員会は2つの作業グループに分けられました。これらのグループは前に述べた2つの目標について協議するため1月28日と29日に会議を行いました。これら兄弟たちの任務への献身に感謝します。彼らの任務がマリア会にとって豊かな成果をもたらしますよう！

尊者ドミンゴ・ラザロ神父

－深い知識と助言の人、そして魂の同伴者－

尊者ドミンゴ・ラザロ・カストロ神父は、スペインのマリア会司祭であり、1935年2月22日、マドリードの柱の聖母中学校で58才で亡くなりました。皆さんは彼の列福調査の過程で、そして特に2019年5月13日、教皇庁列聖省からの尊者の称号を発布された時に、幾度かVia Latina 22の紙面でドミンゴ神父について読まれたと思います。

ドミンゴ神父は、20世紀最初の3分の1のスペイン社会の文化再生の期間に於ける優れたカトリック教育者でした。1930年にスペインの修道会の小・中学校の連合体を設立されたのは彼のお陰ですし、それは、今日、“カトリック学校”の名の下に、スペインの学校生活で活発に活動しています。しかし、ドミンゴ神父は何よりも卓越した霊的名声を持った修道者でした。彼は自分の修道者としての養成をフランス、スペインのマドリード大学、そしてスイスのフリブール神学校で受けました。彼はサンセバスチアンのマリアニスト中学校の校長を勤め、スペイン管区の最初のスペイン人管区長となり、マドリードの柱の聖母中学校の校長となり、管区財務補佐を勤めました。



彼は深い修道者精神を備えた教養人であり、また豊かな指導者としての経験も持っていたので、彼の助言は総本部から高く評価されました。ドミンゴ神父は優れた指導者でした。彼は司祭としての生涯をマリアニスト修道者たち、当時の生徒と多くの卒業生たち、生徒の両親たち、そしてカトリック学校連合の協働者たちの人柄と霊的生活の形成に捧げました。

今年の2月22日、私たちは彼の帰天86周年を祝います。従って、私たちは皆さんが共同体において、或いは先生方、生徒たちそして協働者たちと一緒に学校で、取次ぎを願うミサを捧げてこの機会を記念するようお願いいたします。皆さんはこのミサをマリアニスト家族の意向、あるいは若者の教育に捧げることが出来ます。ミサ聖祭の終わりに、皆さんはドミンゴ神父の取次で願いを求める祈りを唱えることが出来ます。この祈りは、尊者もしくは神の奉仕者と宣言された全てのマリアニストへの祈りが載せてあるパンフレットの中にあります。

福者シャミナードへの祈りの意向

私たちは次の2人の病気治癒のために福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナードに取り次ぎを祈るようマリアニスト修道者と共同体にお願いします。

- * **Mary** (マリア) : Dayton大学卒業、乳がんの診断
- * **Danielle** (ダニエル) : セントルイス (MO-USA) の柱の聖母小教区から。2017年から腫瘍と戦っています。この小教区はダニエルの治癒のため祈っています、小教区websiteを見てください :

<http://www.olpillar.com/a-prayer-for-healing/>

これら2つの意向はアメリカ、カリフォルニアWest-Hillsの共同体のマリアニスト修道者 David Betzから依頼されています。

最近の総本部通信

- 訃報 : 1-2号
- 1月19日 : SM 3部門154号 - 世界的教育協定、3か国語でマリア会全ての修道者あてに教育局長、Maximin Magnan士から送付
- 1月20日 : “マリアニスト聖性”委員会からの書簡が3か国語でEddie Alexandre師から全霊生補佐と行政単位責任者あてに送付
- 1月28日 : SM 3部門155号 - 2021年“マリアニスト連帯とマリアニスト養成に関するファンドの分配”を3か国語で財務局長、Michael McAward士から全マリアニスト修道者あてに送付

総本部日程

- 2月28日 - 3月21日 : 総長評議員会がトーゴ地区を訪問します。